

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人筑後市文化振興公社	
施 設 名	サザンクス筑後	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	5,578	(千円)
	公 演 事 業	3,432 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,146 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	サザンクス筑後あなたと世界のアートが出会う 2020年＜海外作品 招聘国際交流公演＞ 「2020 国際こどもと舞台芸術未来フェスティバル・第20回アシテジ世界大会 in 筑後」	令和2年4月5月	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	400
		サザンクス筑後 大ホール特設ステージ 小ホール		実績値	—
2	サザンクス筑後 九管♡ファミリーコンサート with パントマイム～世界の音楽めぐり～	令和2年8月1日	出演：九州管楽合奏団・はせがわ天晴・坪内晋司・富安美沙子	目標値	300
		サザンクス筑後 大ホール		実績値	112 (495)
3	サザンクス筑後 あなたと世界のアートが出会う 2020年＜イタリア・日本九州コラボレーション国際交流公演＞ 「アンブロジーノ聖歌と声明による祈りの音楽」	令和2年11月8日	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	830
		サザンクス筑後 大ホール		実績値	—

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	サザンクス筑後アウトリーチ事業「学校&地域アウトリーチプログラム～子どもを育てるアートのちから～」(第10期)	令和2年4月-3年5月	出演：九州管楽合奏団・九州内実演家、演劇人・トムパノッブヘム	目標値	5,000
		筑後市内保育園幼稚園・小学校・サザンクス筑後等		実績値	1,722 (6,307)

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

文化芸術振興基本法から文化芸術基本法への改正がなされ数年が経過しています。サザンクス筑後においては文化施設から社会機能施設への転換をミッションとし、その変化や改革が具体的に市民に知らしめられていくこと。また、市民と共にその改革を行っていくことを大切にその組み立てを行ってきています。具体的には文化芸術のジャンルのみでなく教育・福祉・まちづくり・復興支援・防災と言った、多岐にわたる学びを市民に提供することにより、劇場の変革を表現してきています。この上にたつて、令和2年度においては、海外からの優れた文化芸術作品を招聘し、この間築いてきた連携を「文化芸術鑑賞と体験」とおして、更に推し進めていく予定でいました。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大により、残念ながら全ての事業を中止させるを得ませんでした。そのような状況下ではありながらも、感染対策を行い国内における実演家やアーティストを中心に公演事業・普及啓発事業（アウトリーチ事業）、また配信事業も行いコロナ禍であるからこそこの思いで、市民や子どもたちにとっての文化芸術の享受を大切に行いました、

地域に密着した当館としては何よりも“筑後市民にとっての、おらが街の、おらが劇場のサザンクス筑後”であり続けることが、最も大切であると考えます。“市民に愛され賑わいのある場”を取り戻すべく、事業を継続し、まい進しています。この理念で文化芸術に触れたことのない市民の方々に、どうアプローチし、どう共に創る喜びを享受していくかが、私たちの仕事でもあります。人として生まれて、生きる限り、誰しものが必ず持っている自己実現欲求を、隠れたニーズとして引き出していくことこそ、今の私たちの課題であるとも言えます。行政と共に行政が抱える課題解決との連続性を持った事業展開をしていくことが求められていると考えています。

また、現在筑後市は「第六次総合計画」として、その将来像を「豊かな緑と都市の活力が共生し、未来に羽ばたくまち・ちくご」として、施策を組んでいます。8つの大項目に分けられた中のひとつ、「教育・文化」の中に、サザンクス筑後の施策は織り込んでありますが、公社としては、私たちのミッションでもあり、劇場の存在意義でもある“誰にでも等しく文化芸術が享受できる環境を創り出すこと”のためには、筑後市における「8つの分野の政策」にも目を向け、共に“市民の主体性”と“生きる喜び”を創っていくものであります。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

「次世代の担い手づくり」をミッションとして取り組んでいるこの事業の最大の目的は、子どもたちが健全に成長出来る環境を文化芸術体験活動によって作りだし、そのことが大事であると肯定できる大人の理解者と支援者を作っていくことにあります。筑後市は人口5万人弱の中規模都市です。当財団の年間予算は平均して1億5千万円ですが、内、この助成事業も含めて「次世代の担い手づくり」に関連する直接的な事業支出予算は約700万円です。ほか市民への啓発事業や表現教育事業予算等を加えて約1,000万円。これは当財団の全体予算の僅か7%です。この支出金額のみで筑後市内の0～11歳の90%を越える子どもたちに、最低限ではありますが提供出来る事になります。1人当たり約2,000円です。また、サザンクス筑後が設立以来、築いてきた教育機関・福祉施設等との関係はコロナ禍においてより一層の連携性を発揮しました。どの機関においても財政的には厳しい状況が余儀なくされる中、劇場・音楽堂等機能強化推進事業による助成はとても大きな力となっていました。助成金を得て継続的に行うことで文化的価値を作りだしてきたこの事業は、地域社会におけるコミュニティ形成や文化水準の引き上げを行うことが可能であり、経済的価値を見出すことが出来、文化庁予算の20%。国家予算の2%が「児童文化手当」となれば全ての子どもたちにその機会を提供できるという提言に繋げたいと考えています。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

前述同様、「次世代の担い手づくり」をミッションとして取り組んでいるこの事業の最大の目的は、子どもたちの健全成長が出来る環境を文化芸術体験活動によって作りだし、そのことが大事であると肯定できる大人の理解者と支援者を作っていくことにあります。

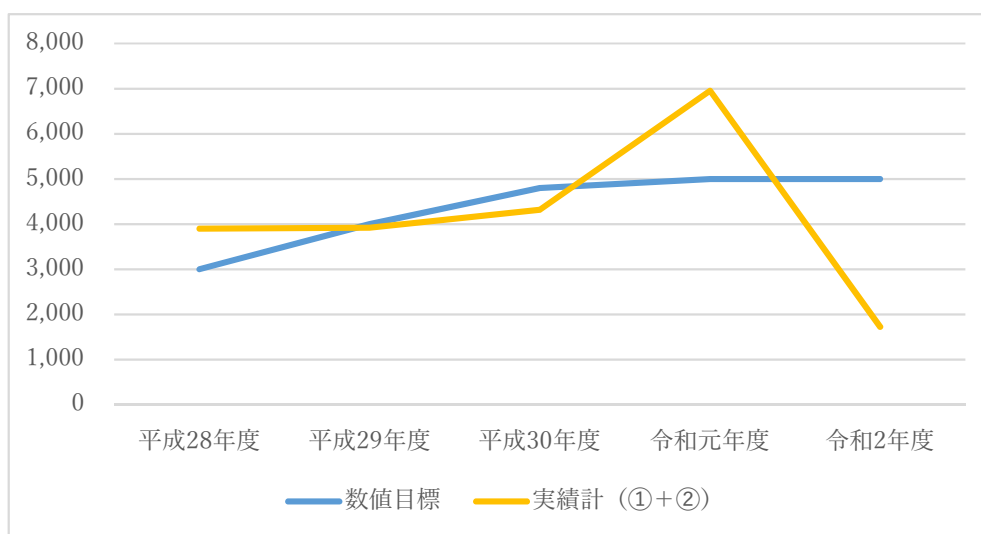
とりわけ、普及啓発事業として平成23年より行ってきた「アウトリーチ事業」に関しては、市内全児童にいかにして文化芸術体験を普及し、その環境を作りだしていくかが目標設定におけるベースとして考えてきました。更には「ニーズを掴む」と「ニーズを作る」視点に立って、地域や児童が求めているものを提供・実施することにより、その先のニーズを作り出すことも目標でした。実施年度毎に、定着化させていきたいテーマには継続してこだわりをもって実施。またニーズを作る点においては、都度、新たなジャンルのプログラムの組み込みも試みてきました。その思いからの海外からの実演家・アーティストの招聘が、令和2年度の最も大きな目標でありましたが、残念ながらこれを叶えることは出来ませんでした。

目標数値の設定は、公演事業・普及啓発事業共に、市内の0才児から未就学児数2,500人。小学校児童数の3,000人のあわせて5,500人を基準としていますが、令和2年度は、アウトリーチ事業においては、対面型に加え配信型も努力しましたが、大幅に減少する結果となりました。(但し、コロナ禍において行った「こども・あーとギフト事業」の閲覧数4,585人を加えると、6,307人となり、目標は達成したことになります。配信型事業を今後も考えていく上においては、目標設定等を分けて考えていく必要もあるかと思っています)

アウトリーチ事業における体験人数推移

(単位：人)

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
数値目標	3,000	4,000	4,800	5,000	5,000
実績①(対面)	3,899	3,923	4,320	6,956	1,189
実績②(配信)	-	-	-	-	533
実績計(①+②)	3,899	3,923	4,320	6,956	1,722
%	130%	98%	90%	139%	34%



(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業においては、4.5月「アシテジ世界大会」。8月「九管コンサート」。11月「アンブロジーノ聖歌」。普及啓発事業「アウトリーチ事業」においては、年間を通しての予定としており見通しを持って取り組めるスパンをとっての開催としていました。しかしながら新型コロナウイルス感染拡大の影響により、公演事業においては、4.5月および11月実施の海外招聘作品に関しては、一旦、令和3年の2.3月への延期を決めましたが、感染拡大が収束しない中、結果中止とせざるを得なくなり、予算・助成金（変更申請）も大きく変更せざるを得ない結果となり、唯一実施できたのは、「九管コンサート」のみとなりました。普及啓発事業においては、中止せざるを得ない学校も出てきましたが、市内11小学校中9校では実施。また、保育園幼稚園に関しては配信にて行う等の努力を重ね実施することが出来たことは、コロナ禍においても継続性をもって行うことができた成果でありました。

公演事業においては、3事業で3,432,000円の交付決定額に対し、1事業実施（2事業中止）により、変更申請を行い、変更承認額は975,000円となり△2,457,000円。実際の助成額は973,619円となりました。

※実施公演事業

事業No2 サザンクス筑後 九管♡ファミリーコンサート with パントマイム～世界の音楽めぐり～

日時 令和2年8月1日（土）11:00 14:00（2回公演、午後の部は配信あり）

会場 サザンクス筑後大ホール

入場者数 112人 配信視聴者数 495回

収支決算 <収入>入場料 79,000円 文化庁助成金 973,619円 自己負担金 1,045,265円

<支出>2,097,884円（収入計に合致）

普及啓発事業においては、企画内容（プログラム）の減少により、交付決定額2,146,000円を、1,702,000円の変更申請となり、△444,000円。実際の助成額は1,700,891円となりました。

※実施事業

事業No1 サザンクス筑後アウトリーチ事業「学校&地域アウトリーチプログラム

～こどもを育てるアートのちから～」（第10期）

日時 令和2年6月11日～令和3年3月1日

会場 筑後市内小学校 教育施設 保育園幼稚園（配信） サザンクス筑後

実施回数等 53日間 64回

参加者数 1,722人（うち配信による参加 533人）

* こどもあーとギフト事業は16日間の配信UP（継続視聴可） 4,585回の視聴

収支決算 <収入>市補助金 250,000円 文化庁助成金 1,700,891円 自己負担金 1,791,070円

<支出>3,741,961円（収入計に合致）

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮1】

※キーパーソンの存在、連携について

地方の中小規模劇場の役割は、市民・子どもをいかに実演家やアーティストと結びつけ、出会わせるかといった「コーディネーターとしての役割」が重要であると考えます。この点においてサザンクス筑後の指定管理者である公益財団法人筑後市文化振興公社は、以下の人材を雇用しており、館を象徴する人材として、市民と共に創り・考えると「コーディネーター業務」を前提に行うことができる人材として大きな役割を果たしています。また各自共に「プロデューサー及びディレクター」としての能力・経験も持ち合わせており、事業形態によってその役割を担う事を行っています。令和2年度における公演事業、普及啓発事業に関しても、如何なくその力を発揮し行いました。

* 中村英司：公社代表理事（筑後市教育長）。公社事業全般を教育事業と結びつけ、学校等の教育機関との連携の要となる役割。本事業においても市補助金の確保、校長会をとおしての学校等への周知の要の役割も担う。

* 齋藤豊治：サザンクス筑後館長（公社業務執行理事）。九州随一の表現学科を持つ市内の九州大谷短期大学の教授でもあり、演劇・ミュージカル等の演出等も手掛け、社会へ巣立っていく演劇と教育を結び付け学生たちへの教育事業を日常的に行っており、本事業においては総括的立場での指示を行った。

* 久保田力：公社事務局長。経営的立場で管理運営及び自主文化事業を統括。筑後市内においては、教育・福祉・文化団体・実演家等との密なコネクションを持ち、全般に責任を持つコーディネーターであり、また演出家でもあり、本事業の公演事業「九管コンサート」における全体構成・演出を行った。また普及啓発事業においては、トム・バノップヘム（ベルギー人・日本在住）と子どもたちとのコラボレーション作品の脚本・演出を手掛けた。

* 松岡優子：公社事業係長。自主文化事業を統括し、本事業においては普及啓発事業（アウトリーチ事業）の九州内演劇人を講師として多数迎える等のコーディネート業務を行った要。また自身、俳優・演出家でもあり、現場においてはアーティストとしての立場をもって業務にもあたった。

* 赤司晴彦：公社舞台係長。サザンクス筑後の劇場における事業のテクニカルスタッフの要。本事業においては、公演事業「九管コンサート」における照明プラン。また普及啓発事業においては、トム・バノップヘム（ベルギー人・日本在住）と子どもたちとのコラボレーション作品の照明プラン等を担った。

上記のとおり公社は、4者（行政・大学・地域団体・文化施設）の連携により、多種多様な市民・子どもの参画を創り出す基盤を整備してきており、「人材・連携・ハード（劇場・舞台機構）」のもつ力を最大限に発揮し、市内における文化活動並びに芸術活動の中心を担う役割を果たしています。

※建物設備、その他安全確保・感染対策防止等について

コロナ禍における感染予防対策に関しては、自治体との連携を密に取り「文化庁感染防止対策事業補助金」への申請・獲得を行い、施設利用における安心安全の対策（空調機能の強化のための設備更新・サーモカメラ、空気清浄機等の設置）をいち早く行うなど努力してきました。

よって、コロナ禍において、休館や時間短縮営業等のリスクを抱えながらではありましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて、感染拡大時には対策のためのテレワーク、思考期間並びに感染対策期間とし、感染拡大が落ち着いた時期には、対策を取って実施といったことを繰り返し行い、文化・芸術の灯を維持し続けた令和2年度でありました。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮 2】

※企画内容、芸術性について

①公演事業について

前述のとおり、残念ながら3事業中2事業（海外招聘作品）が中止となり、芸術性の高い作品との出会いを目指したミッションは、達成する事はできませんでした。「事業 No2 サザンクス筑後 九管♡ファミリーコンサート with パントマイム～世界の音楽めぐり～」に関しては、コロナウイルス感染拡大の中、唯一実施できた事業であり、感染対策の課題も含めて、新たな創意工夫を凝らした、館オリジナルの公演事業となりました。以下、列記いたします。

*生の演奏とパントマイムとのコラボレーションによる、観客である子どもたち、親子を飽きさせない構成。

<演奏者（九州管楽合奏団、指揮者（上田氏）、実演家（はせがわ氏）、プロモーター（M&M）、公社スタッフ（久保田：事務局長兼作品構成・演出、赤司：照明プラン、江崎：映像、音響、配信、松岡：制作全般）>による、度重なる打合せを行いました。

*世界中を席卷している新型コロナウイルスに負けないと言った内容を織り込んだ構成。

*公演事業としては初となる、カメラワーク4台によるオンタイムの配信。

②普及啓発事業（アウトリーチ事業）について

10年目を迎えたアウトリーチ事業においては、年度始め、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ほぼ実施は不可能との見通しを立てました。その見地に立っていち早く行った事業が「こどもあーとギフト（配信事業）」でした。休校期間中の子どもたちに16の作品を届けることが出来ました。広報周知に関しては、市教育委員会をはじめ校長先生方のご協力により、各学校の連絡メール等の手段を使って各家庭に配信情報を届ける等のご配慮・ご協力をいただきました。また、出演の実演家・アーティストに関しては、筑後市に縁のある方々に映像制作を依頼。アーティストとしても公演や活動の現場がことごとく無くなっている中、尽力と感謝をいただき、アーティスト支援としても行えたことは、コロナ禍ならではの事業となったと思っております。

幼稚園保育園への対面でのアウトリーチ事業は全て中止となりましたが、これに関しても、双方向のやり取りにこだわった配信のシステムを作り、同時刻に3園×3回。計9園に「木管アンサンブルコンサート」を届けることが出来ました。園児・先生方に喜んでいただけたのはもちろんのことですが、何より演奏家にとっても久しぶりの演奏となり、たいへん喜ばれ、支援の役割を果たすことになりました。

小学校のアウトリーチ事業に関しては、公社としては諦めていた背景と裏腹に「こんな時だからこそ実施を！」という学校側からのお声に背中を押され、結果市内小学校11校中9校にて実施。配信事業同様に、機会を失っている実演家等を招くことができ、演劇やダンス等の確かな文化芸術の体験を届けることができました。

※情報の整理・発信等

インターネットやSNSを使った発信は日常的に行っています。そのこともあって、令和2年度は、配信事業に関しては新聞社・テレビ局等の取材も入るなどの実績も生み出しました。但し今後、視聴回数の捉え方等の数値データをどう整理するかの課題は残している結果となっています。



配信型アウトリーチ

～九州管楽合奏団・木管アンサンブルコンサート～

新型コロナウイルス感染症の影響は舞台芸術公演の分野にも及んでいて、サザンクス筑後は、さまざまな対策を行い実施方法を検討しています。

同館で毎年取り組んでいる「学校&地域アウトリーチ事業」。これまで同館ホールや学校などに出向してきましたが、今回は動画配信サイトやWeb会議ツールを活用して、直接対面しなくても双方向でやりとりができる形式で実施しました。事業には市内9カ所の保育園や幼稚園が参加。1カ所ずつ回線をつなぎ、3日間に分けて行いました。子どもたちは、画面から流れてくるプロの演奏や呼び掛けに合わせて、楽しそうに歌ったり、踊ったりしていました。

同館の久保田力事務局長は「この事業は、一方的なものではなく、演者と子どもの掛け合いが重要な事業です。子どもたちの目線はどう届けるか、試行錯誤の連続でした」と話しました。



(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、指定管理者である公社にとっては、27年の歴史上最大の経営難を抱える見通しとなりました。利用料金制度を取っている公社は、貸館事業における相次ぐキャンセルにより、多額の収入減となりました。自治体からは指定管理料（運営委託料）のみとなっており、自主文化事業に関する補助は得られていない状況にあります。また自ら収益を得る事業と言っても、中小規模館である当館においては、大きな収益を生み出すことは厳しい状況にあります。利用料がもっとも大きな収入であり、これにより自主文化事業の経費も補ってきたのが率直なところですが、令和2年度においては、令和3年の3月の議会において、結果的には「筑後市指定管理者事業継続支援金」の拠出が決定され、何とか乗り越えることが出来ましたが、この支援金がなければ、公社は多額の負債を抱え、新年度を迎え全ての自主文化事業は中止にせざるを得ない状況に追いやられていたかもしれません。新年度に入っても緊急事態宣言が再度発出される状況にあり、令和3年度においても経営に関しては予断を許さない状況下にあります。無論、今年度も自主努力の一つとして、県及び国の支援金等に申請していくことは行っていきます。しかし、今後、如何にもう一つの自主努力として、自己資金を生み出すかは、急務となる大きな課題であると捉えています。

【人材面】

人材面においては「創造性」の部分でも触れたように、公社自体に、コーディネーターとしての力を持つと共に、実演家としての人材を雇用している強みはあります。職員自らが実演家として出掛けるといったことも行う所存です。しかしながら働き方改革も伴う中、疲弊も生み出す可能性は含んでおります。

中小規模館である公社にとっては施設利用の拡大と自主文化事業への財政拠出は車の両輪であり、安心安全の施設利用の推進をし、利用者並びに自主文化事業参加者の拡大を目指すと共に、地域団体や企業等も含めて筑後市にとっての「文化施設」としての果たす役割への理解の促進。「社会機能施設」としてのサザンクス筑後の新たな役割を広め、寄附金制度等の実現を目指し、市民に守られ愛される施設づくりを行っていく必要性を感じています。また指定避難所やワクチン接種会場等としての役割も果たしながら、機能の大切さと変化を職員が理解し市民と繋がるコーディネーターとしての人材を育成していく、変革していく時にあると認識しております。

【財政面】

成果報告の観点にて、この財政面においては「安定的な収益基盤と財源確保の取組」とありましたが、前述にも記述したとおり、このコロナ禍において「安定的」「財源確保」ということを、『この事業をもって行なう』と言い切ることは出来ないのが率直なところですが、

過去3年間の決算額は以下の通りです。

平成30年度	（収入）153,703,144円	（支出）154,318,870円	（一般正味財産期末残高）6,981,152円
令和元年度	（収入）143,091,657円	（支出）149,365,307円	（一般正味財産期末残高）707,502円
令和2年度	（収入）118,063,400円	（支出）113,696,711円	（一般正味財産期末残高）5,074,191円

* 令和元年度-2年度比（収入△18% 支出△24%）

利用料減による収入減が主な原因ですが、支出割合も抑えられたため、市の支援金もあり、何とか乗り切ることが出来た令和2年度と言えます。このような状況にはありますが、今までも大切にしてきた「まちづくりはひとづくり」の理念のもと、「職員の顔が見える施設づくり」を大切に、私たち自身が市民と共に歩む姿勢で「まちとひとの連携」を築いていきながら、コロナ禍と向き合った組織活動の発展を目指して歩んでいきます。